

東松島市教育委員会では、これまで赤井遺跡と矢本横穴墓群の調査を行うとともに、国の史跡を目指して準備を進めてきました。昨年11月に開催された国の文化審議会で、両遺跡は「赤井官衙遺跡群」として史跡指定の答申を受け、このたび3月26日付けの官報告示により、正式に国史跡に指定されました。

赤井官衙遺跡群は、陸奥国牡鹿郡の役所跡「牡鹿郡家」あるいは『続日本紀』に見える「牡鹿柵」と考えられる赤井官衙遺跡と、その官人らの墓・矢本横穴からなります。関東からの移住者を中心とした集落の形成と官衙の造営、蝦夷の居住域内における官衙の実態、さらにはその運営を担った郡司をはじめとする官人の出自をたどることができる、律令国家成立期の東北経営を理解する上で重要な遺跡として、国史跡に答申されました。

今回の講演会では、赤井官衙遺跡群の歴史的な意義と今後の課題、そして地域のたからとして「赤井官衙遺跡群」が目指すべきこれからについて、長年全国の遺跡の史跡指定や保存活用に関わられてきたお二人にお話しいただきます。

赤井官衙
遺跡群
国史跡
指定記念

赤井官衙遺跡と矢本横穴

赤井官衙遺跡群

記念講演会

『赤井官衙遺跡群が語るもの』

2021年 **6.19** (土) **10:00 ~ 12:00**
【開場 9:30】

東松島市矢本東市民センター

宮城県東松島市小松字下浮足115

入場
無料

定員 100名
要予約

※ 申込みは、縄文村歴史資料館まで。

◇ 記念講演

「赤井官衙遺跡群が語るもの 一律令国家による地方支配と蝦夷対策一」

坂井秀弥氏 (公益財団法人大阪府文化財センター理事長、奈良大学名誉教授)

◇ 記念対談

「赤井官衙遺跡群のこれから」

岡村道雄氏 (奈良文化財研究所名誉研究員、奥松島縄文村歴史資料館名誉館長)

坂井秀弥氏



坂井秀弥氏

公益財団法人大阪府文化財センター理事長、奈良大学名誉教授

1955年新潟市生まれ。関西学院大学大学院修了、博士(学術)。新潟県教育委員会、文化庁主任文化財調査官、奈良大学教授を経て現職。日本遺跡学会会長。考古学から地域社会の歴史と文化財保護・地域づくりを研究。『古代地域社会の考古学』(2008)など。



岡村道雄氏

奈良文化財研究所名誉研究員、奥松島縄文村歴史資料館名誉館長
1948年上越市生まれ。東北大学大学院修了、修士(文学)。東北歴史資料館、文化庁主任文化財調査官、奈良文化財研究所企画調整部長を歴任。祖先、とくに自然と共に生きた祖先の生き方や日本文化の基礎を作った縄文生活を研究。『縄文人からの伝言』(2014)、『縄文の列島文化』(2018)など。

【主催】東松島市教育委員会

【問合せ・申込み】

奥松島縄文村歴史資料館

TEL 0225-88-3927

FAX 0225-88-3928

Mail

jomon@city.higashimatsushima.
miyagi.jp

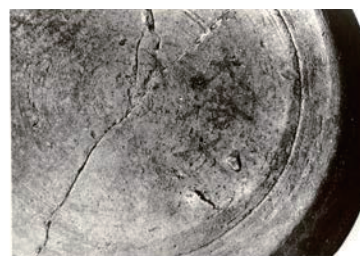
パネル展 (予定)

『赤井官衙遺跡と矢本横穴

— 古代の牡鹿郡役所跡と官人の墓 —』

会場：東松島市図書館

期間：4.17(土) ~ 5.30(日) (予定)



「大舎人」墨書土器